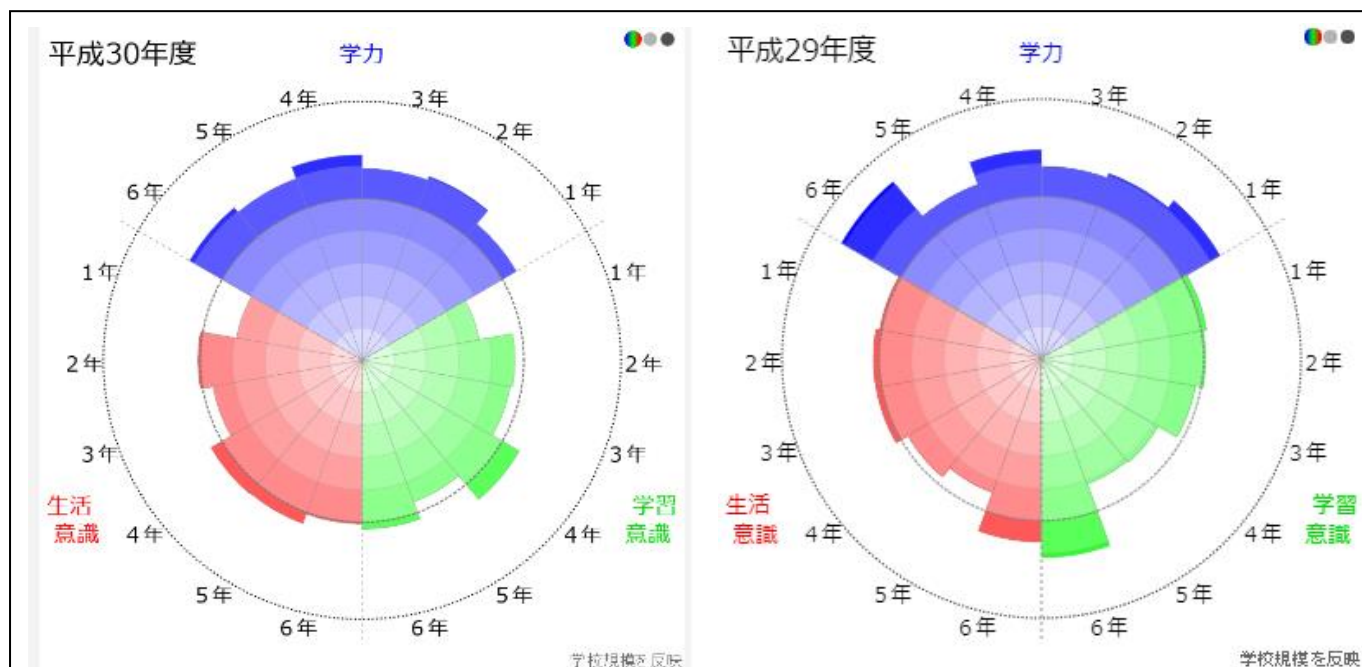


## 令和元年度 学力向上アクションプラン

### 1 学力調査等からの実態把握

#### (1)「横浜市学力・学習状況調査」の分析チャートから



#### ア チャートの傾向

学力は平均より高い。学習意識、生活意識は、学年によって違いがみられる。

#### イ 学校質問紙法

各教員が授業改善に取り組み、児童が主体的な問題解決が出来るように授業を工夫している。宿題や家庭学習の定着を図る取り組みについても効果的であった。学校として取り組んできた結果が学力向上につながっていると考えられる。

#### ○ 児童質問紙法

学習状況調査の学力の通過率は、どの教科においても市の平均を上回っている。高学年では、家庭での学習時間が長いことが学力の高さにつながっていると考えられる。学習では、授業のねらいを意識し、真面目に学習に取り組んでいることがわかる。ただ、教科や学年によって違いがみられるのも本校の特徴である。知識・理解は高いが、技能が低い学年。思考・判断が弱い学年というように、学年によって傾向が異なる。また、過去に高学年でみられた「授業中に自分の考えを発表していない」「話すことや書くことが苦手」という割合が多い特徴については、解消されつつある。今年度も引き続き、学習の基礎・基本を大切にしながら、学力向上を目指していく。また、各担任が学級の児童の実態を的確に把握し、児童に応じた指導法を考え、授業改善を続けていく。

生活意識では、学校のきまりを守っている児童が全体に多いことがわかる。一方で、自分には良いところがあるという自己肯定感が低い学年もあった。今後とも、児童に充実感や達成感を味わわせられるような教育活動を考えていきたい。また、あいさつを進んでしているという項目が平均より下回っているため、あいさつの意味や大切さを伝えていく活動を続けていきたい。

学習意識と生活意識を改善し、学習に対する興味・関心・意欲が高まるようにしていきたい。

## (2) 「横浜市学習状況調査」の結果から（経年分析）

- ・4教科、どの観点も昨年と同様、横浜市の平均通過率を上回っている。学習意識、生活意識が低い項目、学年がある。

## (3) 学校の状況・地域の実態

- ・基本的な内容を十分に理解できていない児童も数名いる。算数のT・T指導等、より児童一人ひとりに合った教育活動を続けている。
- ・地域・保護者が学校に大変協力的で、学習サポーター・読み聞かせ・学援隊等、学校への協力体制が良好である。
- ・教員は重点研授業研究や5年次未満教員研修等、授業改善に向けて取り組んでいる。

## 2 今後の方向

### (1) 最優先課題

- ・さらなる学力向上を目指し、分かる授業・楽しい授業を研究する。問題解決学習の定着を図る。
- ・特別に教育的支援の必要な児童のいる学級に対する指導力向上。
- ・時間割や会議等の精選による研究・研修時間の確保。
- ・保護者、地域が参画して行う学校運営の推進。

### (2) 学力向上重点目標「中期学校経営方針」

- ・自ら問題を設定できる授業、活用力を問う授業を展開し、問題解決に向け、発言力、表現力の向上を図る。
- ・朝学習の時間を効果的に活用し、計算練習や漢字練習を繰り返し行い、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
- ・学習の基礎となる学習規律を確立し、学習習慣の定着を目指す。
- ・一人ひとりのニーズや個の実態に合った学習を実施する。
- ・話す力、聞く力、話し合う力を育てる。
- ・学校と家庭との連携により家庭学習の習慣化を図るなど、保護者の学校への満足度をあげるよう実現する。

## 3 令和元年度 具体的方策

自ら課題を設定できる授業、活用力を問う授業を展開し、問題解決に向け、発言力、表現力が高まる支援を通して、よりよい解決をめざそうとする子を育てる。

### (1) 教員一人ひとりの授業力向上への取り組み

#### ア 問題解決型学習の具現化

##### ○基礎的・基本的な知識・技能の習得

朝学習の時間等の時間を有効に利用し、新出漢字や四則計算等の基礎的・基本的な知識・技能の反復練習。

○話し合い活動、ノート指導の充実

根拠をもった話し合い活動の位置付け。教師は子どもと子どもがつながるような授業展開を意識する。

○言語活動の充実

各教科領域で発表の仕方や話し方について学び、自分の思いを素直に表現できる場を増やしたり、ノートに書いたことを発表したりし、自分の思いを相手に伝える機会を増やす。

○体験活動の充実

本物に触れたり、様々な人と触れ合ったり、実験したり観察したりする体験を通して、自ら課題を設定したり、問題を解決しようとする意欲を高めたりする。

○研究・研修の充実

年間一人1回以上の授業の公開、事前研・事後研等での授業を実施。

「主体的な問題解決学習」を構築した授業提案。

5年次未満教員の自分のテーマを設定し、授業を通して自らの課題を解決する。

### イ 個に応じた指導の充実

○補充的・基礎的・発展的指導内容

「横浜版学習指導要領」の「補充的・基礎的・発展的指導内容」の活用による学力向上。

○特別支援教育の充実

特別に教育ニーズのある児童へTT等による個別指導の充実を図る。

## 2) 学校組織としての取り組み

### ア 問題解決型学習の具現化

○学習の基盤となる規律の形成

全児童が挨拶・返事をできるようにすることの指導、教職員から進んで挨拶をする。

自分の思ったこと、感じたことを言える意欲の喚起と雰囲気作りに努める。

自分たちで自分たちを律することのできる心構えを指導する。

話を聞くためには、相手を思う気持ちが大切なことを理解させる。

○研修・研究時間の確保

時程の工夫等による会議時間や研修・研究時間の確保。

### イ 学校・家庭・地域の連携

○家庭学習の習慣化

家庭と連携し、各学年で決めた時間の家庭学習を行うための学習計画作りの実施。

○学校評価の充実

授業参観、行事等の様々な場面で保護者の思いを受け止め、学校と共通理解をもった学校運営を実現。

### ウ 学力向上アクションプランの検証と授業評価・学校評価

○横浜市学力・学習状況調査    ○授業評価（年3回）    ○菊名小教育懇話会（年2回）

（まちとともに歩む教育懇話会）